

第2回 横浜市泉区地域ケアプラザ指定管理者選定委員会 議事録

日 時	令和7年4月11日（金） 午前9時00分から午後0時40分まで
開催場所	泉区役所4階4ABC会議室
出席者	<p>【選定委員会委員】</p> <p>委員長 村井 祐一 （田園調布学園大学副学長・人間福祉学部教授） 委員 秋葉 輝夫 （下和泉地区民生委員児童委員協議会会長） 有坂 太志 （泉区介護支援専門員連絡会代表） 泉 直子 （泉区地域子育て支援拠点すきっぷ前施設長） 上原 敏博 （中田連合自治会会長） 浦 恭子 （東京地方税理士会戸塚支部） 貝沼 貞夫 （社会福祉法人横浜市泉区社会福祉協議会会長） （緑園連合自治会会長） 辛島 直恵 （和泉中央地区社会福祉協議会会長） 濱野 佐知子 （横浜市泉区在宅医療相談室管理者） 林 里美 （泉区障害福祉自立支援協議会会長）</p> <p>【事務局】</p> <p>泉区福祉保健センター長 瀧澤 朋之 泉区高齢・障害支援課長 石田 登 泉区福祉保健課長 岩井 裕子 泉区福祉保健課事業企画担当係長 大井 翔 泉区福祉保健課事業企画担当 大山 翔子、伊藤 貴</p>
欠席者	なし
開催形態	非公開
議題	<ol style="list-style-type: none"> 1 審査方法について 2 応募団体の面接審査 <ol style="list-style-type: none"> (1) 本市重要政策を踏まえた応募団体の取組状況、前期実績報告書、財務状況評価の説明 (2) 応募団体の面接審査 3 指定候補者の選定、講評
決定事項	<p>指定管理者の候補者及び次点候補者として、次のとおり、横浜市泉区長に報告することとする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 横浜市上飯田地域ケアプラザの指定候補者 指定候補者：社会福祉法人公正会 次点候補者：なし 2 横浜市下和泉地域ケアプラザの指定候補者

	<p>指定候補者：社会福祉法人横浜市社会福祉協議会 次点候補者：なし</p>
議 事	<p>1 事前確認事項</p> <p>事務局から、本日選定を実施する2施設について、公募の結果、各1団体から応募書類の提出があった旨を報告するとともに、次の2点について確認した。</p> <p>○委員会の公開・非公開 応募団体審査、指定候補者の選定に関する審議について非公開とすることを確認。(第1回委員会で審議済み)</p> <p>○審査方法について (事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・面接審査の全体の流れ、質疑応答の流れ、最終審査の流れについて説明。 ・最低制限基準に満たない場合は、再選定を行う旨を再確認した。 <p>2 応募団体の面接審査</p> <p>(1) 横浜市上飯田地域ケアプラザ</p> <p>ア 応募団体の資格要件等、前期実績報告書、財務状況評価の説明 事務局より応募団体の資格要件等について説明。 事務局より前期実績報告書について説明。 浦委員より財務分析結果報告書について説明。</p> <p>イ 面接審査</p> <p>(ア) プレゼンテーション 団体から、団体の概要、事業計画等について説明</p> <p>(イ) 主な質疑応答</p> <p>(委員) 災害の取組に力を入れており、計画書にも定期的に研修を実施していると記載がありますが、具体的にはどのくらい実施していますか。</p> <p>(団体) 昨年度は2回実施しました。介護保険制度の改正に伴い、BCPの策定と研修の実施が義務付けられています。内容としては、地域ケアプラザが福祉避難所となっていることと福祉避難所の役割を説明しました。また、市から備蓄品が配布されているため、備蓄品の内容と保存場所について研修しています。</p> <p>(委員) 人件費について厳しいと思いますが、改善の見込みはつくのかどうか、状況を教えてください。</p> <p>(団体) 厳しい状況です。人手不足のなかで人手を確保するためには給料を上げざるを得ない状況です。そのため、裏紙の活用や封筒の再利用</p>

	<p>等、出来る限り経費を減らすよう工夫しています。また、デイサービスを行っているので、利用料収入が増えるよう取り組んでいます。</p> <p>(委員) 具体的なネットワーク戦略について、特に力を入れている最重要課題のネットワークとその構築状況を教えてください。</p> <p>(団体) 今後取り組んでいくところとして挙げた3つが大事と考えています。3地区いずれも複合的な課題があり、地域ケアプラザだけで解決できるものではなく、介護事業所やケアマネジャー、区役所（行政の制度）だけで解決できるものでもないのが現状であるため、地域ぐるみで取り組む必要があります。地域ケアプラザが中心になってやっていきたいと考えています。災害についても、各事業所でBCPを策定していますが、大規模災害が起きたときはなかなか機能しないのが現状と考えられるので、近隣の施設や事業所で助け合えるよう、災害に関しても施設間での連携に力を入れていきたいと考えています。また、地域の高齢化率が高いこともあり支援の中心は高齢者が多かったのですが、子どもや子育て世代への支援も重要なので、学校の先生方等と話し合いの場を設け連携に力を入れていきたいと考えています。</p> <p>(委員) 情報発信について、具体的に現在どのようなメディアで発信していますか。また、どのように効果測定をしていますか。</p> <p>(団体) 若い世代への情報発信も大切と考えており、インスタグラムを開設しています。また、広報紙を年4回発行しているほか、高齢者の方はなかなかSNS等を見られないので、チラシを配布や掲示しています。インスタグラムのフォロワー数は265人程度で、若い子育て世代の方々にも地域ケアプラザの様々な事業に興味を持っていただいています。地域ケアプラザが、高齢者だけでなく障害のある方や子どもたちにも頼ってもらえるような、よろず相談の場所となるよう運営していきたいと考えています。</p> <p>(委員) 地域ケア会議の実施状況を教えてください。</p> <p>(団体) 昨年度は1回開催しました。生活困窮の方が多い地域のため、身元保証や金銭管理の困難な方へのケースを取り上げ、司法書士の方や介護事業所の方をお呼びしています。地域ケア会議の開催が少ないと認識しているので、今年度は個別だけでなく包括レベルも実施する方向で検討しています。</p> <p>(委員) 地域の担い手づくりが重要と話がありましたが、担い手づくりを進めるにあたって、どのあたりが重要なピースになりそうですか。高齢化が進んでいる地域において、具体的な課題と対策をどうやって取り組もうと考えていますか。また、連携という言葉が出てきましたが、連携を成功させるにあたり、どのあたりを重視していますか。</p>
--	---

- (団体) 担い手の確保については対応を模索しています。住宅供給公社と密に連携をとっており、新しい入居者の方の情報も入ってきますが、若くて障害のある方などが入ってきている傾向にあるので、そこが今後の突破口になると考えており、障害のある方々を地域の力にしていくことを目指しています。自治会の方々も障害のある方々への対応に悩んでいるので、精神障害者生活支援センターと連携しながら、まずは障害の理解と啓発から行っていこうと考えています。
- (委員) 応募書類5ページについて、新しい事業の計画とは何ですか。
- (団体) 瀬谷区で保育事業を進めているので、そのことを記載しています。また、土地があるので駐車場を賃貸で経営しています。
- (委員) 指定管理料提案額の中で、事業費が年々減っています。
- (団体) 指定管理料の提案書をつくった担当が不在のため数字の根拠を確認できませんが、地域活動を支援していくにあたり自主事業を活発化させていくことが必要と考えているので、実施事業を縮小していくつもりはありません。
- (委員) 外国籍の方が多く住んでいる地域ですが、人手不足に対し外国籍の方の雇用等は考えていますか。
- (団体) 現在地域ケアプラザの職員に外国籍の方はいませんが、法人の運営する老人ホームでは、外国籍の方の受け入れを実習段階から行っています。外国籍の方の支援に関しては地域ケアプラザの課題であり、まずはニーズを知ることが大事と考えています。いちよう団地でのLSA事業も法人で受託したので、LSAとも連携し、それぞれのニーズに応じた対応を行っていきたいです。また、いちよう団地においては、多文化共生を担っている方もいるので、その方とも連携し、地域ケアプラザで出来ることがあれば実施していきたいと考えています。
- (委員) 地域ケアプラザエリアの子育てネットワークへの参加や小学生向けに認知症の啓発等を行うなど、子ども向けが目線を持って行っている事業についても、事業計画書にぜひ記載していただきたいです。また、パンフレット等も担い手の方は紙を欲しがりますが、親子はそうではないので、SNSをもっと活用し、担い手の高齢の方にもそれを見てもらおうようにすると、もっとコストを削減できると思います。
- (委員) 今後の参考までに、提案書類の事業計画書について、良い取組を多数行っている所以、写真やデータ等を用いて、もっと具体的な内容を入れていただき、視覚的にもわかりやすくしていただきたいです。また、特に重要なところを下線で強調する等、見せる事業計画書にしていただくと、審査をより適切に行うことが出来ます。

(2) 横浜市下和泉地域ケアプラザ

※貝沼委員が除斥、濱野委員が急用により退席し、8人で審査を実施

- ア 応募団体の資格要件等、前期実績報告書、財務状況評価の説明
事務局より応募団体の資格要件等について説明。
事務局より前期実績報告書について説明。
浦委員より財務分析結果報告書について説明。

イ 面接審査

(ア) プレゼンテーション

団体から、団体の概要、事業計画等について説明

(イ) 主な質疑応答

(委員) 提案書類の事業計画書を読んだときは全体的に抽象的な印象で、下和泉地域ケアプラザへの応募理由が曖昧でしたが、プレゼンテーションの説明で分かったので、プレゼンテーションの内容を事業計画書にも記載いただきたいです。居宅介護支援事業について、地域ケアプラザならではの取組はありますか。

(団体) 他の事業所を交えた事例検討会を年1回開催しており、地域ケアプラザが持っているインフォーマルサービスに関する情報を提供しながら情報交換を行っています。今後は、事例検討会の場に他の関係機関もお呼びして多職種連携も進めたいと考えています。また、居宅介護支援事業の利用者に向けて地域ケアプラザの広報紙を毎月配付し、利用者だけでなくその家族にも地域の情報を届けています。

(委員) 富士見が丘のエリアではこれから5,000人が入居すると想定されていますが、福祉施設と高層マンションとの連携はありますか。例えば武蔵小杉の高層マンション等、類似したエリアについての勉強会等は行っていますか。また、町内会自治会との連絡等はどのように行いますか。

(団体) ゆめが丘駅周辺ではマンションが多く建設されており、若い世代が多く転入することも見込まれています。町内会が発足すると想定していますが、地域ケアプラザとしては町内会との関わりだけでなく、マンションの管理組合とも調整させていただき、マンションのフリースペースでの集いの場の開催等を考えています。また、若い世代向けの広報として、気軽に情報を得られるようSNSの活用も考えていきたいです。

類似したエリアの勉強会の話でいうと、法人で運営している地域ケアプラザの中には高層マンションを多く抱えている地域ケアプラザもあるので、法人のスケールメリットを活かし、他の地域ケアプラ

ザの高層マンションとの取組等を参考にして進めていきたいと考えています。

(委員) 地区センターとの合築施設であることにより、お互いの施設の利用率が下がってしまうのではないですか。

(団体) 地区センターを利用されるのは、健康づくりや余暇活動を中心に行う、比較的若い世代となっています。地域ケアプラザの対象は全世代となっていますが、比較的年配の方が多く利用されています。それぞれの特性を住民の方にPRし、相互に強みを生かしながら連携を進めたいと考えています。

(委員) 担い手の発掘は地区社会福祉協議会の会員の中でも問題になっています。元気な高齢者や学生、泉サポートプロジェクトに参加している施設、企業等に呼びかけ、地域にもう少し力を貸してもらえるように企画等を継続していただきたいです。

(委員) ネットワークづくりにおいて、次期指定期間で力を入れて展開したい部分を教えてください。

(団体) ネットワークづくりは、泉サポートプロジェクトの取組にすべてつながってくると考えています。また、泉サポートプロジェクトと同様に、福祉施設や企業と施設連絡会を隔月で開催しています。施設連絡会では、防災関係の取組への協力や地域課題の検討を行っております。また、地域サロンへ自力で行くことが難しい高齢者のために、福祉施設の大型車両を活用した移送支援を行うための調整等を行っています。

(委員) 地域への情報発信について、現在の展開方法及び効果測定の方法はどのように行っていますか。

(団体) SNSに関しては現在Xを運用していますが、更新頻度が不定期な状況です。また、新たにX以外のツールについて、地域ケアプラザ内に検討チームをつくり進めています。効果測定については、地域ケアプラザが主催する講座や事業実施時に必ずアンケートを取っており、何をみて事業を知ったかについても集計しています。広報紙を見たという回答の方が一番多く、それ以外では口コミという回答が高齢者及び若い世代にもみられ、口コミで広がっていく状況が伺えるので、新たな住民へのアプローチという観点では、今の時代に合ったSNSは重要性があると考えています。

(委員) 地域ケア会議の実施状況を教えてください。

(団体) 令和6年度は個別レベルを1回、包括レベルを2回開催しています。テーマとしては、地域ケアプラザが遠方でなかなか来られないという地区が多くあるため、その地区の町内会長や民生委員・児童委員、地域活動者を対象に地域ケア会議を開催しました。地域ケア会

議によって、その地区で行われている集いの場や、世帯状況等を知ることが出来たので、仕入れた情報を地域ケアプラザ内で検討しているほか、集いの場へ出向き、高齢者の実態把握や地域ケアプラザ機能の周知、介護保険の申請に関する説明会等を行っています。また、同様に地域ケアプラザから遠い町内会で体操などの身体を動かす場がないという意見があったため、町内会長等をお呼びして地域ケア会議を開催しました。町内会の中で集まれる場所がないという話がありましたが、近隣で泉サポートプロジェクトにも加入している施設が日曜日であれば施設の部屋を開放出来るという情報があったので、今年度中の開催を目指して調整を行っています

(委員) 財務状況の健全性に関する記述のなかで、「民間の社会福祉施設整備のための貸付事業」とありますが、どのようなものですか。

(団体) 横浜市が施設整備に対して助成している事業において、仲介として横浜市社会福祉協議会が銀行から借入れ、相手方の法人から返済してもらうというやり方でした。この事業は平成29年度で終了しており、今は各法人から毎年返済されるのみのため、借入金は徐々に減少しています。

3 指定候補者及び次点候補者の選定、講評

応募団体から提出された応募書類及び面接審査等をもとに評価を行い、各委員の評価結果を集計する。

(1) 横浜市上飯田地域ケアプラザ

	応募団体	評価得点/満点	最低制限基準 得点/基準点
指定候補者	社会福祉法人 公正会	1,540/2,600 点	1,558/1,416 点 (66.0%)
次点候補者	なし	—	—

(審査講評)

- ・ 上飯田地域の特徴をよく把握し、地域のことがよく考えられている内容でした。
- ・ 提案書類の事業計画書について、せっかく良い取組をたくさん行っているので、写真やデータ等を用いて、より具体的な内容を入れていただき、特に重要なところを下線で強調する等、見せる事業計画書にさせていただくと、審査をより適切に行えます。
- ・ 圏域に上飯田団地及びいちょう団地があり、外国籍の方も多く住んでいるので、地域ケアプラザが抱えている規模がかなり大きいところです。地域で支援している方々は、その支援の厳しさの現状をおそらく把握している

と想定されます。地域ケアプラザとしても厳しい現状をふまえつつ、さら
 に取組を進めてください。

- ・団地には障害のある方が多く住んでいるので、「障害支援センター芽生え」
 や「泉区障害福祉自立支援協議会」も活用いただきたいと思います。
- また、外国籍の方の相談等にあたり、言語の違いによるコミュニケーション
 の取り方に苦労していることが伺えます。難しいことではあると思いま
 すが、積極的にコミュニケーションをとり、ニーズを集めながら支援の取
 組を進めてください。
- ・収支の不安については、介護保険事業を中心にするると限界があるので、自
 主事業の懸念事項も対応しながら、外国の方や障害のある方の力も生かし、
 維持していくことを期待します。

(2) 横浜市下和泉地域ケアプラザ

	応募団体	評価得点／満点	最低制限基準 得点／基準点
指定候補者	社会福祉法人 横浜市社会福祉協議会	1,255／2,010 点	1,206／1,098 点 (65.9%)
次点候補者	なし	—	—

(審査講評)

- ・プレゼンテーションの内容や資料はとても良かったので、円滑な審査のため、
 事前に審査員に事業計画の内容がより詳細に伝わるよう、事業計画書
 にもその内容を落とし込んでいただきたいと思います。

応募団体の得点は、いずれも最低制限基準を満たしているため、選定委員会と
 して社会福祉法人公正会及び社会福祉法人横浜市社会福祉協議会を指定候補者
 として選定することを決定する。

資 料
 特 記 事 項

1 資料

- (1) 横浜市泉区地域ケアプラザ指定管理者選定委員会名簿
- (2) 横浜市上飯田地域ケアプラザ応募団体の財務分析結果報告書
- (3) 横浜市上飯田地域ケアプラザ応募団体の前期の指定管理業務の実績報告書
- (4) 横浜市上飯田地域ケアプラザの指定管理者評価基準項目（評価シート）
- (5) 横浜市下和泉地域ケアプラザ応募団体の財務分析結果報告書
- (6) 横浜市下和泉地域ケアプラザ応募団体の前期の指定管理業務の実績報告書
- (7) 横浜市下和泉地域ケアプラザの指定管理者評価基準項目（評価シート）

2 特記事項

特になし